

第4回改定委員会議事概要

| 主な意見 | | 素案への対応 |
|--------------------------|---|--|
| 計画全般 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 緑と公園の推進会議からの提言で、「公園が変わると人が変わり、地域が変わる」という意見があった。現行計画の施策の一つで「地域の庭としての公園づくり」というフレーズが心に残っている。コミュニティを育み、人の暮らしを元気づけるという視点が後退しているのではないか。 2. 人と人をつなぐ媒介としてみどりがある。板橋区を住みたくなるまちにするのなら、どういう人が住みたくなるかを考えるべきである。子育ての視点が抜けている。計画のダイジェスト版を作るとしたときに、子育て世代向けに魅力あるものを作ることができるかどうか。 | <p>パークマネジメントガイドラインの目標として「みんなで集える公園づくり」、「いろいろなことができる公園づくり」を掲げており、公園の利活用の活性化を通じた地域コミュニティの醸成をめざす方針である。</p> <p>公園の改修整備の項で子育て支援の視点を記載。パークマネジメントガイドラインの項において、プレーパークの設置に向けた人材の掘り起し等を記載。</p> |
| 1章 計画の基本的事項 / 2章 計画改定の背景 | <ol style="list-style-type: none"> 3. 13ページの基本方針 I の書きぶりは、進捗が思わしくないものに関する記載しかなく、これだけしか取り組まないように誤解されてしまう。資料編に示された事業の進捗状況を本編に戻し、文章自体は削除してよい。 | <p>ご意見の通り、資料編の事業の進捗状況を本編に戻し、文章は削除する。</p> |
| 3章 計画改定の考え方 | <ol style="list-style-type: none"> 4. 防災の視点についてもしっかり記載してほしい。 | <p>グリーンインフラとしてのみどりの多機能性の発揮において、災害から人やまちを守る働きとして記載。</p> |
| | <ol style="list-style-type: none"> 5. 単に避難場所としての役割や存在価値だけでなく、コミュニティをはぐむ場所としてみどりを捉え、みどりのまちづくりを活性化していくといった視点も、詳しく書いてほしい。そうした視点がないと、計画のテーマにつながらない。 | <p>視点 3 として、「みどり」を核としたコミュニティの活性化を通じて、東京で一番住みたくなるまちとして評価されるまちに近づく計画しとすることを記載。</p> |
| | <ol style="list-style-type: none"> 6. 公園やみどりがコミュニティのコアになるという視点はもちろんのこと、コミュニティの存在がみどりの価値を高めるという視点も大切。 | |
| | <ol style="list-style-type: none"> 7. 計画改定の視点1「みどりの多機能性を、区民のために引き出す計画とする」は、ハードル高い。多機能性を高めるために、量と質の確保を目指すという書きの方が良いのでは。機能に即した施策展開ができるのであれば、多機能性を発揮するという表現でもよいが、実際には難しい。ストック効果に注目してもよい。 8. グリーンインフラ、多機能性といった表現があるが、確かにわかりづらい。ストック効果という視点の方がわかりやすい。 | <p>「グリーンインフラとしての“みどり”を軸として、“みどり”の多面的な価値を享受できる計画とします」に修正。</p> |
| | <p><課題の整理></p> <ol style="list-style-type: none"> 9. 18ページの「緑」が漢字になっているが、平仮名で「みどり」とすべきである。 10. ここでいう「緑の質の向上」は、単に街路樹や植栽など植物としての緑の質を高めるということだけでなく、広義のみどりの質を高めることを意味する。みどりの価値を実感してもらうことも、植物としてのみどりではなく、生活の中にどう取り込むかということである。 | <p>「緑」の表記を、広い範囲を含む「みどり」に修正。</p> |

| 主な意見 | 素案への対応 |
|--|---|
| <p><施策展開のテーマ></p> <p>11. テーマⅢの「みどりと人をつなぐ」は、「みどりで人をつなぐ」の方がよいのではないか。</p> <p>12. テーマⅢ「“みどり”と人をつなぐ」の記述は、みどりと人がつながる・参加するというイメージが違う。協働を広げることが主眼で書かれているが、日常的に、思い思いに誰もがみどりを楽しんでいることが大切である。みどりが居心地のよい場所になり、日常の一部になることが重要である。写真もイベントなど恣意的なものである。</p> <p>13. 28 ページの「協働活動」という表現がかたい。イベント参加者を増やすことが目標ではない。みどりとふれあうことを広義に捉え、居心地のよい公園をつくることも大切である。いつでもどこでもみどりを楽しめる、育めるといった視点が必要。</p> <p>14. ライフスタイル、コミュニティ等の言葉がほしい。何となく現行計画と同じようなトーンで古臭いと感じる。前の計画とは違って、イベントだけではないということが伝わるとよい。</p> <p>15. 協働活動の活性化というところは、単にイベントだけではないということが、今回の改定の意図である。</p> <p>16. イベントで人をよせるのもよいが、日常の中に素敵な公園があれば住みやすくなる。</p> | <p>テーマⅡ「みどりで街並みをつなぐ」との関係から、このままの表記としたい。</p> <p>協働活動を広げる内容から、“みどり”をより身近なものにする、“みどり”を楽しむライフスタイルの推進などの内容に全面的に修正。</p> <p>写真についても、“みどり”の中で憩う、“みどり”を楽しむ内容に差し替え。</p> |
| <p><計画の数値目標></p> <p>17. 「植生被覆率」は「緑被率」に変えることの説明が必要。</p> | <p>説明を追記。</p> |
| <p>18. 区民満足度について、12 ページと 30 ページで数字や傾向が異なる点は、誤解がないようにしてほしい。</p> | <p>公園・自然に関する区民満足度（P12）の直近調査値（H29）を集計中のため、今後表記を検討する。</p> |
| <p>19. 数値目標の指標が「みどりのイベント・協働活動参加者数に関する目標値」となっているが、イベントを開催しなければ人が集まらない公園はレベルが低い。住民が自発的にイベントを主催すること、保育や福祉での利用、オープンカフェ、商店街の人たちの利用など、みどりに関わる主体が広がることが目標。常にイベントのためのボランティアが必要ということになれば、エネルギーのかけ方がずれている。</p> <p>20. 31 ページの目標値はよいと思うが、それだけが全てではない。公園利用者数や滞留時間を増やすことも大切。イベントがあるから来るのではなく、暮らしの中に定着するイメージも重要。</p> <p>21. みどりをライフスタイルに取り込むといったことを数字として示すのは難しく、指標の一つとしてイベント参加者数があってもよいが、「みどりのイベント・協働活動参加者数」という表現を工夫してほしい。SNS 等でみどりに関する発信した人の数が増えることや、みどりを通して地域への誇りが高まること、みどりを地域の資産として共有していく機運が高まることなど、みどりをライフスタイルに取り込むことが伝わるようなトーンにしてほしい。</p> | <p>目標値タイトルを「みどりとのかかわりに関する目標値」に変更。</p> <p>暮らしの中での“みどり”とのかかわりを測る指標として、みどりのイベントや協働活動の参加者数を目標値として設定する、とした。</p> |

| | 主な意見 | 素案への対応 |
|-----------------------------|---|---|
| | <p><みどりの基本構造とエリアプラン></p> <p>22. 33・35 ページの図が魅力的ではない。夢を抱けるような魅力的なものにする必要がある。</p> <p>23. 公園不足地域が示されているが、それに対応する施策がない。</p> <p>24. 荒川の整備区域の表現も工夫が必要である。</p> <p>25. 重点は力を入れるという意味合いだが、ここに挙げられているのは事業化されているものである。改善する必要があることについて、重点的に取り組むという意味合いとは少し違う。</p> <p>26. 今の図では、重点プロジェクトだけがやることで、他が何も無いように見えてしまう。</p> <p>27. 農地は資産なのに、農のみどりエリアが公園不足地域の下にあるのが気になるので、見せ方は工夫してほしい。施策としては農のみどりの保全重点地区しか盛り込めないといしても、農地の資産がたくさんあることは記載してほしい。</p> <p>28. 地域性が見えるような将来像を示すことが重要。33 ページの基本構造図は現状分析にとどめておいて、エリアプランは将来構造として、地域の中の構造が見えるような図にしてはどうか。エリアプランで緑化重点地区が全域に広がっているが、それを地域にどう落とし込んでいかが構造図である。35 ページの図の見せ方を検討いただきたい。</p> <p>29. これまでは将来構造が示されてきたが、重点プロジェクト中心のエリアプランも示された。将来構造が骨子に示されるので、図面の位置づけと内容の整理が必要である。</p> | <p>望ましい将来の姿として P82-83 に“みどり”でつなぐライフスタイルイメージ図を掲載。</p> <p>公園不足地域の表示をエリアプランに移し、凡例に取り組み方針を記載。</p> <p>ストライプの表示に修正。</p> <p>改定計画の特徴を分かりやすく示すために、主要な取組を「重点プロジェクト」として設定。 公園整備などハード系の取組みに加え、全域的な取組、ソフト系の取組 3 事業を追記。</p> <p>公園不足地域の表示はエリアプランに移動。農地の多い地域を「農のみどり」として、緑の基本構造の中に表記。</p> <p>P33 基本構造図に崖線・低地・台地を追記。 P35 エリアプランに、公園不足地域、緑の不足地域を表記し、取り組み方針を凡例に記載した。</p> <p>基本構造図は、板橋の風土を形成し将来に引き継ぐ骨格構造。 エリアプランは、計画期間におけるエリア施策としての取組。</p> |
| <p>5章 みどりの施策 展開</p> | <p><全般></p> <p>30. 74 ページのリード文にある「グリーンインフラ」という言葉は、ふれあいや協働に限定したことなく、みどり全般に関わることである。まさにみどりの資産ということなので、42 ページに入れた方がよい。</p> | <p>「みどりの創出による快適なまちづくり」の項に、「グリーンインフラ」としての“みどり”の創出と質の向上を追記。</p> |

| 主な意見 | 素案への対応 |
|--|---|
| <p>31. テーマⅠは保全、テーマⅡはハード、テーマⅢはソフトといった従来の仕分けのままで、こなれない印象なので、レイヤー構造をうまく工夫する必要がある。</p> <p>32. テーマⅡの「“みどり”で街並みをつなぐ」は、主に暮らしにおけるみどりに関する施策が整理されているが、次世代につなぐことと、街並みをつなぐことはレイヤーのように重層的に関わっている。農地を保全するためには、農地付き住宅のような形で、地域資源としての農を活かした暮らし方を進めることも関連する。次世代につなぐのは崖線と農のみどりと河川だけ、街並みをつなぐのは住宅のみどりだけ、と誤解されない表現の工夫が必要である。</p> <p>33. テーマⅠからⅢは全てつながっており、それぞれが分断しているものではないので、工夫が必要である。</p> | <p>施策体系の構造自体を変更することは難しいため、原案の策定に向けて表現の工夫を図っていききたい。</p> |
| <p>34. 官民連携で民地のみどりを活かす観点も必要である。</p> | <p>民地のみどりの活用として、新たな制度である「市民緑地認定制度」や、「界わい緑化活動支援制度」の導入などを記載。</p> |
| <p><農のみどりの保全と活用></p> <p>35. 昨今の都市農地に関する議論では、都市という立地を活かして体験の場として活用するなど、これまでとは違う価値を提供していくという考え方が主流である。農園レストランなどの工夫がある。</p> <p>36. 後継者を育てるだけでは、農地は保全されない。農地の所有者の努力に頼っているように見える。板橋区原風景としての農の風景をどう残すのか。</p> <p>37. 生産緑地法の改正や都市農業振興基本法が意図するところは、農の可能性をもっと広げて、民間で色々なことができるようにする、都市農業の価値観が変わってきているというところ。そうした法改正の狙いをきちんと反映させてほしい。</p> | <p>法改正により生産緑地の中に農家レストランなどが設置可能となったこと、農福連携の取り組みを追記。</p> |

| 主な意見 | 素案への対応 |
|--|---|
| <p><生物多様性の向上></p> <p>38. エコロジカルネットワークの図は現状のみどりのつながりを表現するレベルにとどまっている。地形との関連性などの視点も必要。</p> <p>39. 資料編で示された未実施の事業をみると、ほとんどがエコロジカルネットワークに関わる事項である。課題がどういったところにあるのかを裏返して、どんなエコロジカルネットワークを形成すべきかを具体化すると地域性がみえてくる。地形的な構造と施策上の課題をレビューして、具体化してほしい。</p> <p>40. 個別施策は重点プロジェクトを意識されているが、「生物多様性の向上」と「うるおいのある水辺と湧水の保全」については、関連する重点プロジェクトがない。今後、プロジェクトを検討する余地があるのなら、重点プロジェクトに未実施の事業を位置づけられるような枠組みをつくった方が良い。</p> <p>41. 回廊地区について、白子川流域を含めるのであれば、高島平緑道も位置づけるべきである。前谷津川緑道や志村三丁目にも旧河道がある。志村第六小学校の子どもたちに、エコロジカルネットワークの授業をやることになっており、その中でも、緑道や農地、ビオトープ、街路樹などが大事であるという投げかけをするつもりである。この図はもう少し工夫していただきたい。</p> <p>42. 目標種を設定することが必要。生物多様性を向上するための目標がないと、ただ何となく調査をするだけになってしまう。都市公園には絶滅危惧種が多いが、目標を持って保護していかないと、なくなってしまう。</p> <p>43. エコロジカルネットワークは都市気候を改善する意義がある。みどりを維持することに加えて、さらに補強するためにはどのような住宅のあり方が望ましいのかを明らかにし、施策として緑化の規制につなげるような方向につながるとよい。エコロジカルネットワークは森林セラピーや健康づくりといった効果もある。歩く場所としてのみどりを充実させることで、健康づくりにもつながる。</p> | <p>緑の分布と生き物の生息地評価の関係性が分かるように、樹木被覆率が高いエリア、まとまりのある樹林地率が高いエリアを図中に追加。</p> <p>目標種の設定による重点的な保全の取り組みなどが重点プロジェクトとして想定されるが、今後の課題として検討。</p> <p>回廊地区は大きな構造として河川を位置付けている。</p> <p>高島平緑地や緑道、街路樹などは、地区としての位置づけはないが、ネットワークの拡大・充実に資する重要な要素として捉えている。</p> <p>目標種の設定は現時点では難しく、今後の課題として検討していく。</p> <p>住宅関連としては、緑化指導基準の改正による在来種の植栽推奨、公園・緑道など既存の緑との連続性の確保などを記載。</p> <p>歩く場所の緑の充実として、緑の街歩きの魅力向上の項を追記。</p> |
| <p><老朽樹木の更新></p> <p>44. 67 ページの老朽樹木の更新については、一般的な表現にとどまっている印象。重点プロジェクトでも石神井川の桜にしか触られていないが、桜は区内のあちこちにある。区民としては、桜があるとそこに行ってみたいという動機付けにもなる。次世代につなぐためにはどうするか、施策として盛り込む必要がある。</p> <p>46. 公園の樹木や河川の樹木、街路樹などの更新は重要である。石神井川だけでなく、全般について更新をきちんと入れていただきたい。</p> | <p>区内の桜の見どころは、「緑のコラム」の中で紹介を予定している。</p> <p>街路樹の更新については、街路樹の質の向上の中で記載。公園樹木については、公園施設の安全点検の一環として実施していく旨記載している。</p> |
| <p><接道部緑化></p> <p>47. 89 ページに接道部緑化の推進が挙げられているが、板橋区は接道部緑化の基準がなく、他区より遅れている。65 ページの緑化指導も、面積要件が 350 m²というのは 23 区内でも最低基準である。この基準を見直さないのであれば、あえて書かないほうがよいのではないか。</p> | <p>「緑化指導基準」の見直しの中で、接道部緑化基準や面積要件等についても検討を加えていく。</p> |

| | 主な意見 | 素案への対応 |
|--|--|--|
| | <p><“みどり”とふれあうメニュー・“みどり”をはぐむメニュー></p> <p>48. 「メニュー」という表現が気になる。</p> <p>49. “みどり”と人をつなぐ施策展開の内容がどちらも「メニュー」となっており、イベントやボランティアに関する施策である。先ほどから、みどりがコミュニティを育むといった議論がある中で、イベントが人をつなぐのか、人をつなぐ施策がこれだけなのか、疑問である。世田谷区では、オープンガーデンのような形で、個人宅の庭を地域に開放する取組みなども行われているようだ。個人のお宅のみどりが地域の共有財産になる。板橋区の中でもそうしたことに取り組める形にしていくことが大切である。</p> <p>50. 東京のみどりは民地のみどりが大部分である。公園でのイベントや公園のボランティアだけでは片手落ちである。世田谷区や練馬区では、民地のみどりを守るために先進的な取組みをしている。今までとは違う切り口で取り組んでいかないと、先細りになる。</p> <p>51. 公園の話題が出ているが、今回の都市緑地法の趣旨として、公民連携が主眼にある。その書きぶりが弱い。新しい風を入れる必要がある。再考をお願いしたい。</p> | <p>「メニュー」の表記を修正</p> <p>「みどりを楽しむ機運の醸成」「みどりの街歩きの魅力向上」の項にオープンガーデンの取組みを検討する旨を追記。</p> <p>民有地の緑の保全については、「板橋区緑の保全方針」を軸とした取組みを進めていく計画である。</p> <p>現在、並行して策定中であるパークマネジメントガイドラインにおいて、公民連携の視点に立った取組みについても検討しており、その内容を本計画に反映していく。</p> |
| | <p><公園を使いこなす仕組みづくり・協働活動をサポートする中間支援組織の導入></p> <p>52. 区民の参加したくなる仕組みがどのように今回のプランに反映されるのか。</p> | <p>「みどりを楽しむライフスタイルへのサポート」「区民提案による企画支援制度の検討」の項を追記。コーディネート組織の導入による協働活動の活性化。</p> |
| | <p>53. 80・81 ページのパークマネジメントの内容については、内容が固まるのはいつなのか。また、我々はいつ確認することができるのか。細かい文言はさておき、パークマネジメントがどのような方針となるのか、なるべく早く情報をご提供いただきたい。</p> <p>54. 80 ページには協働推進型指定管理者制度とあるが、これも何を意味するのかわからない。</p> <p>55. 公園の整備、リニューアル、公園を使いこなす仕組みづくりがばらばらに述べられており、分かりづらい。公園の整備やリニューアルにあたって、公園を考える際にパークマネジメントの考え方があり、それにあたって中間支援組織のようなものが必要ということだと思うが、それらがうまく整理されていない。</p> | <p>パークマネジメントガイドラインは、骨子案がまとまっており、その概要を本計画に反映している。</p> <p>「みどりと人をつなぐ仕組みづくり」の項を設け、産官学民間のコーディネート（中間支援）を行う組織、活動内容について記載。</p> <p>「公園を使いこなす仕組みづくり」については、パークマネジメントガイドラインの骨子案に基づき再整理した。</p> |
| | <p>56. 中間支援組織とあるが、これだけ読んでも内容がよくわからない。中間支援組織が何なのか、この場で何も議論していない。緑と公園のサポーター会議の発展形をイメージされているのか。</p> <p>57. 中間支援は、みどりと人をつなぐための手段の一つである。具体的な手段の書きこみが難しいとしても、何が必要か、方向性を書くことはできる。人をつなぐために必要なことや施策の整理がばらばらである。分かりづらく、もっと盛り込むものがあると思う。</p> | <p>「みどりと人をつなぐ仕組みづくり」の項を設け、産官学民間のコーディネート（中間支援）を行う組織、活動内容について記載。</p> |